

2021年7月

第130号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

主要7カ国首脳会議（G7）・共同声明

主要7カ国(Group of seven)が6月11日から6月13日まで英国のコーンウォールで開催され閉幕した。2年前の首脳会議では米国のトランプ大統領が米国第一主義を唱え「G7はひどく時代遅れのグループだ」と述べるなど非協力的な言動に一時機能不全に陥っていた。

そもそもG7は国際秩序を守る「民主主義」「法の支配」「人権重視」といった共通の価値観を持つ先進国の首脳の会合である。今回の会議には米国でトランプ大統領からバイデン大統領に変わり国際協調路線に復帰した。7首脳の中でバイデン大統領と日本の菅首相が新たに加わり、ドイツのメルケル首相は政界引退のため今回の15回サミットが最後となる。

今回は広範囲に亘る諸問題について討議が行われ、14項目に及ぶ事項について共同宣言に盛り込まれた。

その主なものとして、1.中国問題に関し透明性のあるインフラ投資、新疆ウイグル自治区の人権や香港の統制強化問題、台湾海峡の平和と安定の重要性を強調、兩岸問題の平和的解決などを求める 2.新型コロナでは途上国を中心にワクチン10億回分の供与 3.経済・雇用関係では途上国に対して質の高いインフラ投資に取り組み経済を再活性化させる、法人税の最低税率を15%以上とする 4.気候変動問題では脱炭素社会を目指し排出削減のない石炭火力への新規国際支援を年内に終了する 5.オリンピック開催については安全・安心な形での開催を改めて支持することなどが盛り込まれた。

我が国にとっての優先順位は①東京五輪開催 ②台湾情勢 ③中国問題などであるがいずれも共同声明に盛り込まれた。

今回のサミットではインド、オーストラリア、韓国、南アフリカなどが招待され「自由で開かれたインド太平洋」(FOIP)の重要性についても明記され、初めて台湾海峡の「兩岸問題の平和解決を目指す」とした点についても日本の主張が取り入れられ評価できる内容となっている。

しかし、中国ではサミットの声明に対して「中国を中傷し内政干渉した」とし、新疆ウイグル自治区の人権問題や香港・台湾問題についても事実を歪めていると反発している。G7内でも温度差がありドイツ・フランスなどは中国に対して融和姿勢をとっている。いずれにしても様々な問題が山積しているが中国を抜きにして解決困難な問題が多い。対話を重ねながら解決に向けた粘り強い努力が欠かせない。

12日には香港の民主活動家、周庭(アグネス・チュウ)氏24歳が昨年12月に香港政府に抗議する未許可デモを組織した罪で10ヶ月の実刑判決を受け、釈放された姿が報道されたが周氏の目がうつろで悲しみに溢れているように映った。

自由にモノを言えなくなるような社会は御免被りたいものだ。

企業リーダーは読書を



元慶應義塾大学 名誉教授 村田昭治

自分の原典

わたしが青春時代に影響を受けた方の一人が亀井勝一郎先生だが、亀井先生も「読書は背伸びして努力するほど楽しいのではないか。障害物が大きいほど精神は鍛えられるものだ」と教えてくださった。そして「自分の原典を発見することだ」と言って、古典を読むことを奨められた。

わたしは乱読し続けてきた読書家だったが、その中で、自分の原典といえる書にいくつか出会うことができた。倉田百三氏の「愛と認識との出発」は、その一冊だ。

倉田先生は旧制高等学校生だったときに、西田幾多郎著「善の研究」に出会う。序文を読みはじめたが、瞳が活字の上に釘付けになった。「見よ! 個人あって経験あるにあらず、経験あって個人あるのである。個人的区別よりも経験が根本的であるという考えから、独我論を脱することが出来た」という文章だった。「独我論を脱することが出来たという数文字が、網膜に焦げつくほどに強く映った。心臓の鼓動が止まるかと思った」。「善の研究」を一気に読んだ。

「難しくよくわからなかったけれど、深みのある独創的な、直感的な思想に魅せられてしまった。その認識論は私の思想を根底より覆すに違いない。そして私を新しいフィールドに導くに相違ないと思った。このとき私はものしずかなる形而上学的空気に包まれて、柔らかに溶けてゆく私自身を感じた」

わたしは「愛と認識との出発」を繰り返し読んできたが、右の文章に接すると、何とすさまじい真剣な読書かとその気迫と情熱に打たれ、自分の読書姿勢を正す肅然とした気分になる。それはまた読書の醍醐味であろうとも思う。

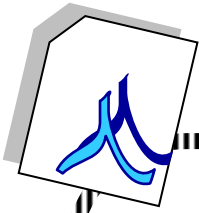
実業界の世界に話を移すと、わたしは留学したハーバード ビジネススクールの OB が書いたレポートを保存している。そのなかに「ハーバードは経営の姿や分析を教えているのではなくて、いかにして社会にたいして心を開いてやさしくするか、そして未来を予測しようという前に夢を大きく持って、その夢をフォルム化(形に)することを考えさせてくれた」という言葉があった。

その OB はこうも書いてあった。「仕事は喜びが湧かなかったらやめろ。喜びが湧く仕事は楽しく、かつ社会に輝きを与えて社会を美しくする。それは華のある仕事になっていく」と。

これこそ実業力、商売力というものではないだろうか

企業リーダーは多忙であろうが、読書と思考の時間をぜひもちたい。そして明るい新しいフィールドを発見してもらいたいと思う。

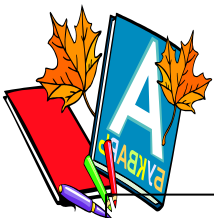




陸奥 宗光 (日本の武士、外交官、政治家)

- 1844年8月20日(天保15年) 現和歌山市吹上の紀州藩士・伊達宗広・政子の6男として生まれる。
- 1852年 紀州藩内で勘定奉行をしていた父が、藩内の政争で破れ失脚。一家は困苦と窮乏の生活。
- 1858年(安政5年) 江戸に出て、安井息軒に師事するも、吉原通いが露見し、破門となる。
その後水本成美に学び、土佐藩の坂本龍馬、長州藩の桂小五郎(木戸孝充)、伊藤俊輔(伊藤博文)と交友を持つ。
- 1863年(文久3年) 泊園書院(現関西大学)に学び、後勝海舟の神戸海軍操練所に入る。
- 1867年(慶応3年) 坂本龍馬の海援隊(前身は亀山社中)に加わる。
- 1868年 岩倉具視の推挙で外国事務局御用係となる。
- 1869年 兵庫県知事。
- 1872年 地租改正局局長。薩長藩閥政治に憤慨し辞任。
- 1877年(明治10年) 西南戦争の際、土佐派と連絡を取り合っていたことが発覚。禁固5年の刑を受ける。
- 1883年(明治16年) 伊藤博文の勧めでヨーロッパ留学。19年帰国。
- 1890年 農商務大臣・外務大臣などを歴任。
- 1894年(明治27年) 子爵を叙爵。翌年、日清戦争の功により伯爵。
- 1897年8月24日(明治30年) 肺結核のため死去。享年54歳。
勲一等瑞宝章。旭日大綬章を受けている。

オススメの BOOK



「岸 恵子 自伝」

作者 岸 恵子 出版社 岩波書店

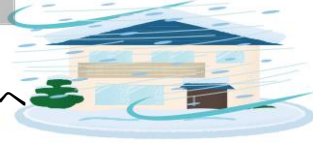
岸恵子と言えば、高齢者なら大流行した映画「君の名は」の真知子役を演じた大女優を思い出す。24歳の時スターの座をかなぐり捨ててフランスの映画監督イブ・シャピンと結婚した。「卵を割らなければ、オムレツは食べられない」とは夫の言葉。卵を割って結婚し、卵を割って離婚。国際ジャーナリストとしてアフリカ・アラブなど身の危険を顧みず国際的事件の現場に踏み込んで取材もした。

現在88歳、「卵を割り続け」未知の世界へ挑戦し続けてきた人生の物語。



くらしと保険のおはなし

自然災害増 火災保険値上げへ



6月16日、2022年度から火災保険料が大幅に値上げになるとの発表がありました。全国平均で10.9%引き上げるといふもので値上げ幅は過去最大となります。

日本損害保険協会によると、主な風水災による保険金の支払額は、2018年度は1兆5000億円を超えており、2019年度も約1兆720億円と2年連続で1兆円を超えています。また、築年数が古く破損しやすい住宅が全体に占める割合が高まり、保険金の支払いが大きくなりがちなことでも考慮しました。今後も風水災は増大するとの予想もあり保険金支払額が膨らむのは必至だと損保業界では見えています。

今回の改定で、火災保険の契約期間も最長10年の契約期間が5年に短縮される見通しです。そうすると、こちらも保険料の実質的な値上げに近いものとなります。保険期間が短縮になると長期割引の割引率が小さくなり保険料負担が増えます。そして、保険料改定の影響を受けやすくな

る為、値上げ局面では保険料の負担増になります。

それでは、火災保険料を抑えるためには何をすればよいのでしょうか？

■直近に満期を迎える契約の場合は、契約期間が短縮になる前に10年契約を結び直す。

■契約内容を見直して、不要な補償は外す。ちなみに、火災保険は「解約返戻金」という制度があり、契約期間の途中で解約すると未経過分の期間の保険料が返ってきます。この返戻金は損保各社で異なりますが未経過分の保険料が殆ど戻ってくるので契約内容の見直しでの保険の掛け替えは問題ないと言えます。

相次ぐ自然災害で保険金支払いが急増していることを反映した形での値上げは直近4年間で3度目となります。契約者が保険料改定の影響を受けるのは改定後に新規契約あるいは更新をしたタイミングとなりますので、検討してみてもは如何でしょうか。



2021年に限り祝日が移動します。
7/19⇒7/22(木)海の日
10/11⇒7/23(金)スポーツの日
8/11⇒8/8(日)山の日

【編集後記】

今月もまた日本のアスリートたちの熱い戦いに称賛の拍手と感謝の言葉を送ることとしたい。

6月8日女子ゴルフ、「全米女子オープン」で笹生優花選手(19)が初優勝した。昨年の全英オープンを制した渋野選手に続いての快挙である。

6月19日ボクシングWBA、IBF統一バンタム級王者井上尚也選手が米ネバダ州・ラスベガスで行われたタイトル防衛戦で3回KO勝ち、スキのない圧倒的強さを披露。

続いて20日、大リーグの大谷翔平選手が6戦で6発のホームランをかつ飛ばし、投げても3勝目を上げ、盗塁やライトの守備をこなすなど大活躍。米国内はジャパンファーストに沸き立った。

やっぱり「ガンバレ日本」チャッチャッチャだね。